

付記

観光研究

03年の観光立国宣言、さらに07年の観光立国推進基本法の施行、08年の観光庁設置など、国の動きに連動して、観光の位置づけは、観光の現場である地域、産業、そして教育それぞれの分野において、ますます重要性を増している。それとともに、学術分野においても、さまざまなアプローチによる研究が活発に行われるようになってきている。

ここでは、観光関連学会の動向から、我が国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

90年代以降増える観光関連学会

(1) 日本国内の観光関連学会数、設立年

データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、独立行政法人科学技術振興機構、<http://gakkai.jst.go.jp/gakkai/control/toppage.jsp>)によると、国内主要学術団体(1,992件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会(以下「国内の観光関連学会」)は、14年9月現在、合計10団体が存在する(表-付記-1)。

このうち、現在まで活動している最も古い観光関連学会は、日本観光学会(60年)である。日本レジャー・レクリエーション学会(旧称・日本レクリエーション学会、71年)、余暇・ツーリズム学会(統合前旧称・日本余暇学会、73年)、日本観光研究学会(旧称・日本観光研究者連合、86年)が続き、90年代には2団体(日本国際観光学会、93年)、日本ホスピタリティ・マネジメント学会(旧称・日本ホスピタリティ教育学会、95年)、2000年代には3団体(総合観光学会(01年)、観光まちづくり学会(01年)、日本観光ホスピタリティ教育学会(02年))が設立され、最も新しい学会は12年に設立された観光学術学会である。90年代以降に観光関連学会が新たに

6団体設立されたことから、90年代以降に観光が研究分野の一つとして注目されてきたことがうかがえる。

(2) 活動内容

観光関連学会の活動内容は、学会によって多少の違いがあるが、大会の開催、研究会等の開催、機関誌・学会誌の発行、会報の発行などは、ほぼ全ての学会で行われている。また、学会によっては、学会賞の授与・研究業績の表彰、研究の助成、調査研究の実施(受託研究含む)、視察・研修の実施、図書の監修・刊行、国際学術交流等が行われている。

このうち、機関誌・学会誌は、10団体が合計11誌発行している(日本ホスピタリティ・マネジメント学会は2誌発行)。最も古い機関誌・学会誌は『日本観光学会誌』(前身『日本観光学会研究報告』、61年～)であり、『レジャー・レクリエーション研究』(前身『レクリエーション研究』、65年～)、『観光研究』(87年～)が続く。また、日本ホスピタリティ・マネジメント学会は英文の機関誌・学会誌を発行している唯一の学会である(『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』)。

機関誌・学会誌に掲載された査読付き原著論文(機関誌・学会誌により名称が異なる。『観光学評論』は展望論文を含む)は、13年度に9誌合計45本(1誌当たり平均5.0本)であった。また、機関誌・学会誌の発行頻度は平均1.36回/年であった(年1回が6誌、年2回が5誌)。

現在のところ、データベース・サービス「CiNii」に論文の一部を公開しているのは1誌のみ(『観光ホスピタリティ教育』)である。学会誌のデジタル化は国内の観光関連学会が抱える大きな課題の一つとなっている。

(渡邊智彦)

表 付記-1 国内の観光関連学会

	学会名	沿革	設立目的・趣旨	日本学術会議協力 学術研究団体の指定	本部/事務局、支部	会員数、会員構成
1	日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism (JAST)	1960年 設立	観光及び観光事業に関する学術の進歩・普及	指定あり (2005年11月～)	【会長】 三橋勇 (秀明大学) 【本部/事務局】 宮城大学内 【支部】 東北・北海道支部、関東支部、中部 支部、関西支部	○正会員 259名 ○準会員 18名 ○法人会員 3団体 (2014年4月現在)
2	日本レジャー・ レクリエーション学会 Japan society of Leisure and Recreation Studies (JSLRS)	1964年 レクリエーション研究 懇談会創設 1965年 日本レクリエーシ ョン研究会発足 1971年 日本レクリエーシ ョン学会発足 1991年 日本レジャー・レク リエーション学会に 改称	レジャー・レクリエーションに関する調査研究を促進し、レ ジャー・レクリエーションの普及・発展に寄与する。	指定あり (1981年3月～、1993年 9月再登録)	【会長】 鈴木秀雄 (関東学院大学) 【本部/事務局】 早稲田大学 前橋明研究室 【支部】 なし	○正会員 381名 ○購読会員 17件 (2014年3月現在)
3	余暇ツーリズム学会 JAPAN SOCIETY FOR LEISURE STURY AND DEVELOPMENT	1973年 日本余暇学会設立 1981年 活動休止 1996年11月 活動再開 2001年 ツーリズム学会設立 2012年 日本余暇学会とツー リズム学会が統合	【日本余暇学会】 社会学、教育学、観光学、経営学、経済学、政治学等の諸学問分 野の協力による総合的な研究。科学的な研究体系の構築。諸学 問分野にあって余暇問題に関心を寄せる研究者が、相互に研究 成果を検討し、研究の発展をはかる場。 【余暇学会とツーリズム学会の統合の狙い】 近年、産業面でも研究面でも進展著しい「ツーリズム」という領 域を余暇研究の重要な分野として明確に位置づけて余暇研究の 深化・拡大を図り、余暇に関わる基礎研究においても、また、ツー リズム以外の研究領域についても、さらなる前進を果たす。	指定あり (2008年1月～)	【会長】 飯嶋好彦 (東洋大学) 【本部/事務局】 東洋大学 国際地域学部国際観 光学科内 【支部】 なし	○正会員 (大学院博士後 期課程在籍者も含む) 198名 ○賛助会員 5名 ○準会員 (学生・大学院 修士課程/博士前期 課程学生) 38名 (2014年9月現在)
4	日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research (JITR)	1986年 日本観光研究者連 合設立 1994年 日本観光研究学会 に改称	○観光に関する研究とその連絡提携および促進を図り、もって観 光研究の発展に貢献する。 ○会員相互の研鑽と協力とによって、観光に関する理論と学術的 体系の整備を推進するとともに、21世紀における観光ならび にリゾートのありかたについて指導的役割を果たすことを意 図した活動を展開する。 ○観光に対する"学術的研究"をさらに推進するとともに、観光 研究における"国際交流"と"学際交流"を促進することを課 題とする。	指定あり (1996年9月～)	【会長】 村上和夫 (立教大学) 【本部/事務局】 立教大学 観光学部内 【支部】 関西支部 (2003年7月設立)、九州・ 韓国南部支部 (2007年4月設立)、 東北地域懇談会	○一般会員 897名 ○賛助会員 3団体 ○特別会員 8団体 (2014年5月末現在)
5	日本国際観光学会 Japan Foudation for Inter- national Tourism (JAFIT)	1993年 設立	国際観光が社会・経済・文化面で世界的にその重要性を増しつ つあるので、この分野における学術的研究を推進しその基本理 論や事業手法の確立および普及を図り、もって国際観光の望ま しい発展に貢献する	指定あり (2002年8月～)	【会長】 松園俊志 (東洋大学) 【本部/事務局】 千代田区日本染色会館3階 【支部】 なし	○正会員 381名 ○学生会員 47名 ○賛助会員 2名 (2014年3月末現在)
6	日本ホスピタリティ・ マネジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Manage- ment(JASH)	1992年 日本ホスピタリティ 研究会が学会設立 準備委員会として 発足 1995年 活動開始 1997年 日本ホスピタリ ティ学会として独立 1997年 日本ホスピタ リティ・マネジメント 学会に改称	ホスピタリティ概念を基盤としたホスピタリティ・マネジメントに 関する学術の研究および普及	指定あり (1999年9月～)	【会長】 高橋武秀 (一般社団法人日本自動 車部品工業会) 【本部/事務局】 新宿区八ツ橋ビル4階 【支部】 関東支部、関西支部、九州支部	○正会員 258名 ○準会員 7名 (2014年9月現在)
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies	2001年 設立	○専門分野を超えた総合観光学の確立 ○観光地域の持続可能な発展を支える役割を担う	指定あり	【会長】 山下晋司 (帝京平成大学) 【本部/事務局】 日本大学 商学部内 【支部】 なし	210人 (2007年9月現在)
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design	2001年 設立	○観光まちづくりに関する学術の進歩及び普及 ○従来の「観光研究」の視点を、専門領域にとらわれることなく、 総合科学的な「観光まちづくり研究」に発展させ、時代の要請 に応える。	指定あり (2009年6月～)	【会長】 長谷川明 (八戸工業大学) 【本部】 八戸工業大学 長谷川研究室 【事務局】 一般社団法人岩手県土木技術セン ター内 【支部】 北海道支部 (2008年～)	○正会員 114名 ○学生会員 3名 ○名誉会員 2名 (2013年10月末現在)
9	日本観光ホスピタリティ 教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators (JSTHE)	2002年 設立	観光ならびにホスピタリティ教育に関する研究とその連絡提携 および促進を図り、もって観光ならびにホスピタリティ教育の振 興に貢献する	指定あり (2007年9月～)	【会長】 小畑力人 (追手門学院大学) 【本部/事務局】 杏林大学 外国語学部内 【支部】 なし	○正会員 139名 ○準会員 10名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 2名 (2014年7月1日現在)
10	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies	2012年 設立	観光学の学術的発展と普及を図る	指定あり (2014年4月～)	【会長】 橋本和也 (京都文教大学) 【本部/事務局】 有限会社地域・研究アシスト事務 所内 (大阪府) 【支部】 なし	○正会員 (一般) 264名 ○正会員 (院生) 43名 ○準会員 (学部学生) 4名 (2014年6月現在)

注：データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、独立行政法人科学技術振興機構、<http://gakkai.jst.go.jp/gakkai/control/toppage.jsp>) に収録されている国内の主要学術団体 (1,992件) のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語が含まれる学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。

活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集	ホームページURL
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会の開催(年2回春・秋、基調報告、研究発表、総会、シンポジウム) ○海外の大学・研究機関との国際学術交流(ジョイント・シンポジウム) ○ワークショップ、研究発表、シンポジウム ○機関誌の発行(『日本観光学会誌』) ○情報誌の発行(『とらべろじい』、年2回) ○学会賞の授与 ○提言(2004年に「真の観光立国へ25の提言」を国土交通省へ提出) 	<p>【学会誌】 『日本観光学会誌』 (1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』、1961～1995年) (2013年度:第54号 論文1本、研究ノート7本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>	<p>http://www.kankoga.or.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○学会大会(年1回、特別講演、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、ワークショップ、表彰) ○研究会・講演会等の開催 ○学会誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』) ○学会ニュースの発行(年2～3回) ○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞、2007年～) ○研究の助成(研究助成制度、2011年～) ○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レクリエーション・公園協会との情報交換、ホームページのリンク等) 	<p>【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年2回) (前身『レクリエーション研究』、1965～1991年) (2013年度:第72号 第43回学会口頭発表要旨20本、ポスター発表抄録9本/第73号 評論1本、原著論文2本、第43回学会大会報告、学会賞報告他)</p> <p>【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)</p>	<p>http://jslrs.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○学会大会の開催(年1回) ○研究会・分科会の開催(テーマ・ブロック別、2006年まで47回開催、以降は不定期開催) ○研究誌の発行(『余暇学研究』) ○ニュースレターの発行(年4回) ○図書の編集(『余暇学を学ぶ人のために』『余暇事業論—多様化する余暇事業の未来予測—等、合計4冊) ○受託研究 ○会員の研究活動支援 	<p>【学会誌】 『余暇学研究会誌』 (2014年3月～、年1回) (前身『余暇学研究』、1998～2012年) (2013年度:第1号 論文8本、研究ノート4本、その他1本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>	<p>http://www.yokagakai.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表) ○研究分科会の開催 ○研究懇話会の開催(年2回、1月と7月) ○支部・地域懇話会の開催 ○機関誌の発行(『観光研究』) ○会報の発行(『学会報』、年4回) ○メールニュースの配信 ○特別研究の助成 ○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年～) ○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定) ○観光研究に関する外国諸団体との交流 等 	<p>【学会誌】 『観光研究』 (1987年～、年2回) (2013年度:VOL25 No.1 論文2本/VOL25 No.2 論文2本)</p> <p>【大会論文集】 『全国大会論文集』 (1986年～、年1回)</p>	<p>http://www.jitr.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表) ○例会の開催(研究発表・講演、年5回) ○産学協同セミナー「ソールリズム・フォーラム」の開催(年6回、2003年～) ○国内外でシンポジウム開催 ○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』) ○会報の発行(年4回) ○教科書・学術書の出版(『新版 旅行業入門』『観光学大事典』等) ○懸賞論文の実施(太田記念国際観光懸賞論文) ○国際観光研修旅行の実施 ○国際観光に関する学術調査および研究 ○内外の企業、団体、個人よりの委託研究 ○関連学会、協会との連絡および交流 	<p>【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』 (1993年～、年1回) (2013年度:第21号 論文14本、研究ノート8本、調査報告6本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>	<p>http://www.jaft.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、シンポジウム) ○研究部会の開催(適宜) ○ホスピタリティ・コンベンションの開催(年1回、2008年まで) ○研究会(各支部それぞれ年2回) ○学会誌の発行(『HOSPITALITY』International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management) ○図書・報告等の発行 ○学会賞の授与(日本ホスピタリティ・マネジメント学会大賞等) ○内外の学会、その他関連団体と連絡 	<p>【学会誌】 『HOSPITALITY』 (1993年～2012年度まで、年1回) (2013年～、年2回) (2013年度:21号 論文4本)</p> <p>『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』 (2012年～、年2回、英文学会誌) (2013年度:Vol.2 No.1 論文3本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>	<p>http://www.hospitality.gr.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全国学術研究大会の開催(年2回、研究発表、シンポジウム、基調講演、パネルディスカッション、視察研究) ○学会誌の発行(『総合観光研究』) ○海外の研究者との交流 ○研究成果を著書として発刊 ○観光関連の文献・データの収集 	<p>【学会誌】 『総合観光研究』 (2002～、年1回) (2013年度:不明)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>	<p>http://www.afz.jp/~skankou/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○研究大会の開催(年1回、総会、表彰、記念講演、研究発表会、エクスカーション) ○研究発表会の開催 ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の実施 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』) ○学会賞の授与(学会賞・優秀発表賞、2006年～) 	<p>【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』 (2003年～、年1回) (2013年度:第10号 論文5本)</p> <p>【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)</p>	<p>http://www.kankou-m.jp/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会の開催(年1回、講演、シンポジウム、研究発表・教育実践報告、ワークショップ) ○シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～4回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○学会報の発行(年3回程度) ○外国諸団体との交流 ○研究の奨励と研究業績の表彰 	<p>【学会誌】 『観光ホスピタリティ教育』 (2006年～、年1回) (2013年度:第7号 教育実践報告3本、書評4本)</p> <p>【大会論文集】 『全国大会論文集』 (年1回)</p>	<p>http://jsthe.org/</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○全国大会の開催(年1回、特別講演、シンポジウム、総会、一般研究発表、学生ポスターセッション) ○研究会の開催 ○機関誌の発行(『観光学評論』) ○ニュースレターの発行 ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流 	<p>【学会誌】 『観光学評論』 (2013年～、年2回) (2013年度:第1巻2号 特集論文4本、原著論文1本、展望論文1本/第2巻1号 特集論文4本、原著論文1本、展望論文1本)</p> <p>【大会論文集】 『大会発表要旨集』 (2012年～、年1回)</p>	<p>http://jsts.sc/</p>

資料：データベース「学会名鑑」、各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2014年9月現在)